

新基地建設反対名護共同センター ニュース

真の平和と安全な世界のために、「グアムと沖縄」共に闘い続けよう!!

東村高江米軍北部訓練場のヘリパッド建設強行に抗議する座り込み十八周年の報告集会が、九月七日(日)東村農民研修施設において行われました。

氏が、「軍事強化に前のめりになる沖縄の現状があるが、沖縄の負担軽減のためというグアムへの海兵隊の移転は問題のすり替えである。グアムをはじめ軍事基地のある島々と手を取り合い、軍事の縮小・撤廃を外交や話し合いで解決する道を模索し、共に声を上げ、軍事化に抗つていきたい。」と述べました。

メインゲート前で監視行動を行つている「住民の会」の梅澤さんから、昨年十一月から新しい工事(倉庫や隊舎増設)が始まり、コンクリートミキサー車やダンプ四〇台余りが毎日行き来し、ヘリやオスプレイが今も上空を旋回する高江の現状が報告されました。

グアムの軍事化に抗つて活動する住民組織を代表して講演したモネツカ・フローレンスさんは、「沖縄海兵隊グアム移転に伴うグアムの軍事拡大について」報告しました。

「グアム住民の国籍はアメリカですが、大統領選挙の投票権はなく、グアム選出の連邦議会の下院議員には議決投票権がなく、海兵隊移転計画に対しても発言権がありません。」と告発しました。

グアムの北部にある地域は手つかずの自然が残り、固有種、絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息しているが、実弾射撃訓練場(年間七百万発)が建設され、環境への深刻な影響(PFAS汚染等)が心配されている。グアムの先住民族チヤモロ人が定住している。その地域には貴重な文化遺産が豊富に残っているが、米軍基地に接続も制限されている。

モネツカさんは、日本国民、沖縄県民が支払った税金でグアムに新基地が建設されている現状に怒りを持ち、真の平和と安全な世界のため共にたたかい続けようと呼びかけました。



東村高江米軍北部訓練場のヘリパッド建設強行に抗議する座り込み十八周年の報告集会が、九月七日(日)東村農民研修施設において行われました。

氏が、「軍事強化に前のめりになる沖縄の現状があるが、沖縄の負担軽減のためというグアムへの海兵隊の移転は問題のすり替えである。グアムをはじめ軍事基地のある島々と手を取り合い、軍事の縮小・撤廃を外交や話し合いで解決する道を模索し、共に声を上げ、軍事化に抗つていきたい。」と述べました。

メインゲート前で監視行動を行つている「住民の会」の梅澤さんから、昨年十一月から新しい工事(倉庫や隊舎増設)が始まり、コンクリートミキサー車やダンプ四〇台余りが毎日行き来し、ヘリやオスプレイが今も上空を旋回する高江の現状が報告されました。

グアムの軍事化に抗つて活動する住民組織を代表して講演したモネツカ・フローレンスさんは、「沖縄海兵隊グアム移転に伴うグアムの軍事拡大について」報告しました。

「グアム住民の国籍はアメリカですが、大統領選挙の投票権はなく、グアム選出の連邦議会の下院議員には議決投票権がなく、海兵隊移転計画に対しても発言権がありません。」と告発しました。

グアムの北部にある地域は手つかずの自然が残り、固有種、絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息しているが、実弾射撃訓練場(年間七百万発)が建設され、環境への深刻な影響(PFAS汚染等)が心配されている。グアムの先住民族チヤモロ人が定住している。その地域には貴重な文化遺産が豊富に残っているが、米軍基地に接続も制限されている。

モネツカさんは、日本国民、沖縄県民が支払った税金でグアムに新基地が建設されている現状に怒りを持ち、真の平和と安全な世界のため共にたたかい続けようと呼びかけました。

安和桟橋出口での死傷事故・現場での追悼抗議集会に約100人

安和桟橋出口での死傷事故から1年が過ぎた今年の6月29日、現場で追悼・抗議集会を行い、約100人が集まりました。

この集会に対しては、前日に自民党の県議から県議会で問題視され、また、右翼の妨害も予想されましたが、当日は参加者の駐車場所での混乱はあったものの、右翼の街宣車はこちら側の対応に納得して静かに立ち去り、事なきを得ました。

防衛局(沖縄の自民党も)は県民の基地建設反対の願いを無視し、市民の抗議を妨害だと決めつけ、まるで犯罪を取り締まるように警察権を使い、ネットフェンスで歩行者を閉め出し、事故前の2倍の数のダンプを通しています。

事故の本当の原因は、地元紙やNHKの一部の番組で報道されたように、ダンプを少しでも早く数多く通そうとした事にあります。取材に応じてくれた運転手さんは、警備員の危険な誘導に不安を持っていたと証言しています。危険な誘導は防衛局からの指示であったと思われるメールの文面も報道されています。

再開から1年が過ぎ、現場ではお互いの立場を尊重しながら安全が保てるよう、模索しながら行動しています。私たち(時には私一人)が車両乗り入れ部を歩く間、2基の赤色灯がサイレンを響かせ、警備員と防衛局と共同企業体らが15人ほどで口々に大声で威嚇し続けます。

そんな中、1年以上動きがなかった警察が突然、被害者であるOさんを重過失致死容疑で取り調べるという暴挙に出ました。

私たちは、被害者を加害者に仕立てあげようとする権力に決して屈することなく、基地のない平和な沖縄をこどもたちに手渡せるよう、これからも頑張る決意です。

井浦 みつる(新婦人名護支部)



沖縄・平和と人権博物館ネットワーク始動

今後のイベント予定 第2回シンポジウム

○10月12日(日)
午後2時~ (無料)
南風原中央公民館

県内バスツアー(無料)

○11月30日(土)
中部・南部地域(不屈館)
○12月20日(土)
那覇・南部地域

問い合わせ先
平和関連施設ネットワーク
構築事業運営事務局
電話 050-9001-9778

- ① 会員間の情報・意見・経験の交流
- ② 沖縄発 平和・人権を発信する博物館の活動についての広報
- ③ 平和・人権に関する学習
- 【参加八施設】
 - ・不屈館(那覇市)
 - ・対馬丸記念館(那覇市)
 - ・愛樂園社会交流館(名護市)
 - ・佐喜眞美術館(宜野湾市)
 - ・沖縄県平和祈念資料館(糸満市)
 - ・ひめゆり平和祈念資料館(糸満市)
 - ・南風原文化センター(南風原町)
 - ・ヌチドウタカラの家(伊江村)

不屈館だより第25号より転載

人権こそ命! 「命どう宝」
それに勝る宝なし

沖縄戦から八〇年が経つ今年、県内の博物館など八施設が連携して「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」が設立されました。不屈館も参加しています。

このネットワークは、戦争の悲惨さや戦後の米軍政下体験から生じる命の尊さや人権の重要性を伝えることを目的としています。特に若い世代に対して歴史と体験から学び、現在を考える力を身につけてもらいたいとの思いを強く持っています。

今後は定期的に集まり、次のような活動に取り組んでいく予定です。